

特集

浮いて 待て！

小さな頃から自然と触れ合わせたい。

コロナが心配だからできるだけ外で遊びたい。

この夏は、家族でアウトドア！

とても楽しい自然遊びですが

一方で、ちょっとした見落としが原因で

大きな事故が起こり

命を落とす人が毎年大勢います。

楽しいひと時を

一刻を争う緊急事態に一転させないために

水難事故を防ぐポイントを

東温市消防本部とおさらいしましょう。



その2 家族で 決める

事故を未然に防ぐために

川でのレジャーは、魚とりや釣り、水遊びやボート遊びなどのほかに、河原でのバーベキューなど、水に入らない楽しみ方もあります。そのような場合でも、毎年のように水難が発生しています。

特に子どもは川での事故が多いため、「絶対に一人では遊ばないように」と、家族で決めごとを作りましょう。

川の状態は、曲がり方、傾斜、川幅、岩の突出などの地形によって、右岸、左岸でも川の流れが違っていたり、川底に深みがあったりするため急に流されたり、深みにはまったりする危険があります。

上流の天候などによって大きく変化し、安全と思われる場所でも上流で豪雨があると急に増水し、水難につながる危険があります。

さらに、大人も飲酒や睡眠不足、体調不良のときは水に入らないようにしましょう。「少しなら」という油断が命取りです。

その1 データを 知る

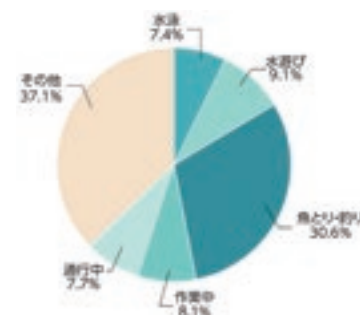
子どもの事故は河川で多発

平成30年度、全国で水難事故に遭った人は1,529人います。そのうち692人が死亡または行方不明となっています。

いったん起きると、命にかわる重大事故になる可能性が非常に高いのが、水難事故の特徴です。

水難事故と言うと海のイメージを持ちますが、約半数が川や用水路、湖などで発生しており、内陸部の東温市でも発生する危険があります。

さらに死亡、行方不明につながる水難事故は、魚とり、釣り、水遊び、水泳中が多く、遊びが事故につながるため、



平成30年水難の概況（引用：警察庁）

注意が必要です。

特に中学生以下の子どもの場合、川での死者・行方不明者は、海のおよそ2倍。

海水浴はもちろん、川や用水路での魚とりや水遊びなどをするときは、保護者の方は、くれぐれもご注意ください。

子どもから目を離さない

そして、余裕があれば近くで遊んでいる大人の方は、子どもの姿を見かけると、「近くに保護者の姿はあるか」を確認していただけると、重大事故につながる恐れを、少なくすることができます。

地域の子どもたちを見守るという意識を、皆さんで持っていきましょう。



その3 プロから 学ぶ

東温市では毎年8月に行っているジュニアリーダー養成講座で、水防訓練

を行っています。(講師..東温市消防署消防士)

川で身体を浮かせる場合、水と身体の比重の関係で、体の2%程度が水に浮くことになります。

2%だと、浮くのは頭のてっぺんのみ。そのため、仰向けになり、バランスをとって、2%を口と鼻に集中させる必要があります。訓練が必要です。

具体的には、

①手足を大の字に広げる。

②靴は履いたまま。軽い靴は浮き具がわりにする。

③大きく息を吸い、空気を肺にためる。あごを上げて上を見ると呼吸しやすい。

④手は水面より下にする。ペットボトルなど浮くものがあれば胸に抱える。

以上のことが大切です。

子どもたちは、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校でのプール活動がなく、不慣れなことも多いかもしれません。

大切な命を守るため、川では大人と一緒に遊びましょう。

浮いて
待て!



現場で活動する消防士の声



東温市消防署
調査係
松田 義生
消防士

浮いて待て!で 生還率が高まります

「浮いて待て」は、背浮きになり、ぶかぶか浮いて救助が来るまでの間、呼吸を確保する方法です。

流されてしまったら落ち着いて、体の力を抜き、息を吐くのを我慢して背浮きになると、ぶかぶかと浮き上がります。慌てて手をばたばたしてしまうと、息を吐いてしまいどんどん沈んでしまいます。

靴を履いていれば、その浮力を利用して、足を浮かすことができます。人間は足から沈むため、背浮きになっていても、足が浮いてくれば、岸面に浮いていられるのです。

助けにいき、2次災害になることがあるため、友達や子どもがおぼれていても水に飛び込まないようにしましょう。陸からペットボトルなどを投げ入れ「浮いて待て」を指示し、すぐに119番通報を行い消防に救助要請をしましょう。

【ペットボトルの使い方】

ペットボトルをおへその上くらいで持つ。背浮きの姿勢をとり、顔を水面に出す。靴を履き浮力を利用する。お尻が下がらないようにする。

その4 もしもに 備える

③ 河原や中州、 川幅の狭いところに注意



河原や中州は、急な増水により水没する恐れがあり、増水すると逃げ道がなくなり取り残され危険です。川幅が狭い場所は増水すると短時間のうちに水位が上昇し、川の流れが速くなるため、特に注意が必要です。

① 出かける前に 天気や川の情報チェック



川に行く前に、天気や川の情報チェックしましょう。悪天候が予想されているときは、無理をせず中止しましょう。上流にダムがある場合は水量や水の需要に応じて放水することがあり、その場合は急激に増水することがあります。

④ 天気や川の変化に注意する

上流(水が流れてくる方)の空に黒い雲が見えたとき、雷が聞こえたとき、雨が降り始めたとき、落ち葉や流木、ゴミが流れてきたときなどは、川の水が急に増えるサインです。すぐに避難しましょう。



② 危険を示す掲示板や速い水流、 深みがあるところは避ける

「危険を示す掲示板」が設置されている川では遊ばないようにしましょう。川の地形は複雑で、場所によって川の流れが速くなっていたり、急に深くなったりする場所があります。そのようなところには近づかないようにしましょう。



⑤ ライフジャケットを着用する

釣りをするときは、ライフジャケットを必ず着用しましょう。ライフジャケットは、体のサイズに合ったものを選び、正しく着用し、事故が起こったときの連絡手段を確保するため、携帯電話を防水パックに入れて携行しましょう。

